

議事録サマリー

作成日：平成 16 年 8 月 20 日（金）

作成者：小澤富士男（ITCA）

会議名称	IT 経営応援隊 第 1 回「IT 経営教科書作成委員会」	
開催日時	平成 16 年 8 月 2 日（月） 14：00～16：30	
開催場所	経済産業省 本館 2 階 西 8 共用会議室	
出席者 （敬称略）	委員長	川内 晟宏（プロセス経営研究所代表 / IT コーディネータ）
	委員	上村 孝樹（㈱日経 BP 社 主任編集員・中堅中小企業 IT 化支援プロジェクトリーダー） 菊地 俊延（イノバートストラテジー有限会社 代表取締役） 木村 玲美（ITC-METRO、浜松総務部有限会社） 桑山 義明（オープンコンサルティングプロジェクト代表） 下田 邦典（特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 専務理事） 中村 和夫（㈱イー総研 代表取締役社長、IT コーディネータ、中小企業診断士、TAMA 客員研究員） 伏見 真（株式会社名古屋ソフトウェアセンター 取締役企画部長） 松島 桂樹（武蔵大学経済学部教授（経営情報システム担当）） 弓崎 伸彦（特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 事務局） 【欠席】内田 和成（ボストンコンサルティンググループ日本代表） 【欠席】高梨 智弘（株式会社 日本総合研究所 理事 公認会計士 経済学博士） （五十音順）
	経済産業省	野口 正（商務情報政策局 情報化人材室 室長） 河野 太志（商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐） 中川 欣司（商務情報政策局 情報処理振興課 係長） 青田 優子（商務情報政策局 情報処理振興課）
	中小企業庁	鶴田 雅文（中小企業庁技術課 企画官）

議事進行	中川 欣司（商務情報政策局 情報処理振興課 係長）	
配布資料	資料 1	IT 経営応援隊（中小企業の経営改革を IT の活用で応援する委員会） 第 1 回 IT 経営教科書作成委員会 議事次第
	資料 2	IT 経営応援隊 IT 経営教科書作成委員会 委員名簿
	資料 3	座席表
	資料 4	「IT 経営応援隊（中小企業の経営改革を IT の活用で応援する委員会）」と 「IT 経営教科書作成委員会」について
	資料 5	IT 経営応援隊教科書作成の基本コンセプト
	資料 6	IT 活用優秀企業 100 選 選出ポイント

議事録サマリー

第1回目のIT経営教科書作成委員会の開催にあたり、各委員の挨拶、本委員会および関連委員会の説明、およびIT経営教科書作成の基本コンセプトの説明があり、議論が行われた。

1. 委員長および各委員の挨拶

委員会の開催に先立ち、委員長及び各委員から自己紹介を兼ねた挨拶が行われた。

2. IT経営教科書作成委員会の説明

河野太志（商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐）様より、「IT経営応援隊（中小企業の経営改革をITの活用で応援する委員会）」と「IT経営教科書作成委員会」についての説明が行われた。

- IT経営応援隊について
- 中小企業のIT化のポイント
- IT経営応援隊の組織について
- IT経営応援隊の活動領域について
- IT経営教科書作成委員会について
- IT経営応援隊の事例収集ターゲットについて
- IT経営教科書作成委員会の事業実施イメージについて
- IT経営教科書普及について

2. IT経営教科書作成の基本コンセプトの説明

川内晟宏委員長より、本教科書作成の基本コンセプトについて説明が行われた。

(1) IT経営の障害となる「壁」と「壁」を越えるための「気づき」について

- 中堅、中小企業のIT経営の「3つの壁」と壁の発生要因の説明
- 中小企業を企業規模とIT経営成熟度で層別化を行い、定義を確認した
- 経営者の「気づき」モードの定義も確認した
- 中小企業の層別化モデルを企業規模とIT経営成熟度で展開し、それぞれセグメントをどのように「気づき」に導くか、さらに「気づき」から「IT経営」につなげていくかのプロセスを説明した
- 経営者に気づいてもらうことを明確にするとともに、その成功要因を説明した

「気づき」の議論の中では、下記のような意見が出された。

「なぜIT経営が必要か」についての気づき

IT経営の必要性に気づいた企業を、具体的に方向付けていく段階での気づき

企業が置かれている「外部環境（マーケット、製品）」「内部環境（経営のあり方、従業員）」が変化していることについての気づき

次回までに、「気づき」について「ITCA教科書検討委員会」でたたき台を作り、具体的な議論を行うことを確認した。

(2) IT経営について

- IT経営とは何かの定義から、IT経営の戦略マップが説明された
- IT経営が何をもって成功とするか、その成功要因はなにかが、問い掛けられた
- IT経営が成功するための項目が提示された
 - (1) ITは経営課題解決、経営改革のための手段と認識する
 - (2) 企業の身の丈にあったIT投資を行う
 - (3) ITガバナンスの確立が重要である

議事録サマリー

「IT 経営」とはの議論の中では、下記のような意見が出された。

中小企業であっても課題解決だけでなく、魅力ある企業を作るアプローチが必要であり、そのために、如何に IT を戦略的に使っていくかが重要である

中小企業にとっては、その企業の強みを生かしていくこととトップの思いが、スタートポイントとして重要である

ニュー 3K（企業価値創造、顧客価値創造、雇用創造）を目指していくと魅力ある企業になる。企業が頭を使って知恵を貯めていく、そのためには IT がベースになっていく。

「IT 経営が目指すものは何か」について、次回までに、各委員に意見をまとめて提出いただくこととなった。

(3) IT 経営教科書の基本構成について

- 経営者を「気づき」に導くプロセスが説明された

- (1) ステップ 1 として IT 経営を実現するための支援体制の存在に気づく
- (2) ステップ 2 としてどの経営課題を解決すればよいかに気づくとともに、解決の手段があることに気づく
- (3) ステップ 3 として課題解決になぜ「IT 利活用」が有効か気づく

- 教科書作成の基本コンセプトが説明された

- (1) 特定のアプリに触れない上流工程に限定する
- (2) 「気づき」段階から失敗しない本格的は情報化投資段階へ踏み出すためのキッカケとなる情報提供になること
- (3) 教科書利用者を、中小企業経営者と支援メンバーの 2 つとし、それぞれ向けに作成する

- 教科書の構成案が説明された

- (1) 第 1 編：気づき編
- (2) 第 2 編：IT 経営編
- (3) 第 3 編：支援制度、支援ツールの紹介

- 気づきの進捗度をどのような手法でステップアップさせるかを図示した

- 教科書が対象とするプロセスは、「気づき」と「戦略立案」である

- 今後のロードマップが説明された

- (1) 1、2 ヶ月に 1 回の割合で開催する
- (2) 平成 16 年内に 版を完成
- (3) 平成 16 年度（平成 17 年 3 月）に 晩を完成予定

来年度に向けての検討課題が提示された

バージョンアップ、普及の仕組み作り、「IT 経営」実現のための手法、支援ツール開発

3. IT 活用優秀企業百選の選出のポイントについて

上村委員より、IT 経営教科書作成委員会と関連のある、「優秀 IT 経営選考委員会」での優秀企業の選出ポイントについて説明があった。

4. 次回日程

9 月末から 10 月の第 1 週を候補とする。（10 月 12 日に決定した）

以 上